

事務事業名		博物館教育普及事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	14 生涯学習の推進			
	基本事業名	03 学習活動の促進		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 S58 年度～)	
根拠法令				<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
所属	部課名	教育委員会博物館		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
	課長名	江刺雄輝			
	係名	博物館	電話 29-2161		
	担当者	白玉 豊	内線 -		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・博物館資料や気仙地域の自然と文化について普及する事業。 ・主な業務は、①体験学習・自然観察の実施、②生涯学習相談・専門研究対応の実施、③各種実務体験(博物館実習・職場体験・社会体験等)の受入、④学校教育との連携、⑤博物館講座(市民講座)の実施、⑥小学生向け「博物館スクール」の実施、⑦博物館職員派遣の実施、⑧所蔵資料の特別利用、⑨個人所蔵資料くん蒸サービス、⑩文化財収蔵庫一日公開の実施など ・事業費は、体験学習/自然観察等の講師謝金、各種消耗品などに支出される。				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
				総投入量 (千円)	事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0
					人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0
					トータルコスト(A)+(B) 0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 海辺の生物観察会、博物館講座(成人大学講座)、「チリメンモンスターをさがせ! 4」、「おおふなとしぜん かわらばん2016」、「恐竜3Dぬりえ」など 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 縄文土器製作会、ドッキーワークショップ、植物観察会、博物館講座(市民講座)、チリメンモンスターをさがせ、おおふなとしぜん かわらばん、教員のための博物館の日など	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 博物館スクールの実施回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>イ 生涯学習相談の対応件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ウ 博物館職員の派遣回数</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	ア 博物館スクールの実施回数	回	イ 生涯学習相談の対応件数	件	ウ 博物館職員の派遣回数	回
名称	単位								
ア 博物館スクールの実施回数	回								
イ 生涯学習相談の対応件数	件								
ウ 博物館職員の派遣回数	回								
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市民	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カ 人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	カ 人口	人	キ		ク	
名称	単位								
カ 人口	人								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 教育普及事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サ 普及事業への参加者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	サ 普及事業への参加者数	人	シ		ス	
名称	単位								
サ 普及事業への参加者数	人								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 主体的な学習活動が行われている									

(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	339	286	334	340	350	350
	事業費計(A)		千円	339	286	334	340	350	350
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	900	950	1,000	1,000	1,200	1,200
		人件費計(B)	千円	3,600	3,800	4,000	4,000	4,800	4,800
		トータルコスト(A)+(B)		千円	3,939	4,086	4,334	4,340	5,150
⑤ 活動指標									
	ア	回	1	1	2	2	4	4	
	イ	件	12	26	25	25	30	30	
	ウ	回	6	2	2	3	3	4	
⑥ 対象指標									
	カ	人	38,167	37,633	37,379	37,124	36,870	36,615	
	キ								
	ク								
⑦ 成果指標									
	サ	人	1,113	827	850	850	900	900	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0901	事務事業名	博物館教育普及事業
--------	------	-------	-----------

- (3) 事務事業の環境変化・住民意見等
- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和58年、新館開館の翌年から、各種普及事業を開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
東日本大震災後、一部の普及事業(自然観察・体験学習等)の実施を見送っていたが、平成27年度に地質観察会を、平成28年度に海辺の生物観察会を順次復活させ、平成29年度は植物観察会・縄文土器製作会を実施するなど、震災以前の普及活動の水準に戻す努力を行っている。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・協議会委員から、海辺の生物観察会を毎年でも行ってほしいとの要望があった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 普及事業への参加は、主体的な学習活動に直結する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 市の生涯学習施設である博物館が、普及事業を通して市民の主体的な学習活動を支援することは、市の施策としてふさわしい。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 館独自で実施する事業にあるべき水準との差異がある。被災地支援による普及事業を独自事業へと発展的に移行させ、新たな内容の学習機会の提供に努める必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 専門的な生涯学習の機会が少なくなり、市民の学習活動への支援に支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 自然観察・体験学習は隔年開催にするなど、事業費の削減を図っている。体験学習等で費用がかかる場合には、参加費を設定し徴収している。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 費用を最小限にして市民の学習興味を喚起するためには、事業内容の工夫などに専門職員(学芸員)等の相当な人手と時間がかかることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 体験学習等で参加費用がかかる場合には実費負担を求めている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																	
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) → ③ 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																	
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・被災地支援を受けて実施してきた「おおふなとしぜんかわらばん」、「チリメンモンスターをさがせ！」は、事業の方向性を検討し、独自のアレンジを行って新たな学習機会の提供を行っている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持		●	×	低下		×	×
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上維持		●	×														
	低下		×	×														

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	各種支援を受けながら、限られた人員配置のもとで必要な事業を安定的に実施している。今後とも、施設の設置目的に沿った専門職員の安定的確保が必要である。